

干ばつ被害茶園における樹勢回復対策

農業研究センター 茶業研究所

担当者：下門 久

研究のねらい

平成6年は、夏から秋にかけての記録的な少雨、高温によって、葉焼けや枝枯れ等の干ばつの被害が発生して樹勢が著しく低下し、翌年（平成7年）の一番茶の生育、収量は極めて悪かった。

そこで、このような干ばつ被害茶園における樹勢回復対策として、一番茶の摘採の有無や一番茶後及び二番茶後のせん枝による樹勢回復について検討した。

研究の成果

- 平成7年秋の生育状況は、浅刈り区が生育良好で、対照区に比べて優れていた。深刈りした区は枝条が伸びすぎ、秋芽の揃いが悪かった（表2）。
- 処理翌年（平成8年）の一番茶の生育は、浅刈り及び深刈りを行った区は新芽の伸びが良好であった。せん枝を行わなかった対照区と整枝区の新芽は小さかった（表3）。
- 一番茶の生葉収量は、一番茶後及び二番茶後の浅刈り区の収量が多く、対照区に比べて明らかに優れた。また、一番茶摘採の有無では、一番茶を摘採した方が収量が多くなる傾向がみられた（図1）。
- 以上の結果から、干ばつ被害園における樹勢回復対策としては、一番茶を浅く摘採して、一番茶後もしくは二番茶摘採直後に浅刈りせん枝を行うことが有効な技術であると考えられた。

普及上の留意点

- せん枝時期、深さは茶園の立地条件や樹勢を考慮して決める。

表1 試験区（平成7年一番茶から処理）

1区	一番茶摘採（5/11）	二番茶摘採（6月26日）（対照区）
2区	〃	二番茶期（6月26日）浅刈り
3区	〃	一番茶後（5月23日）浅刈り
4区	〃	〃（同上）探刈り
5区	一番茶摘採中止	二番茶期（6月26日）整枝
6区	〃	〃（同上）浅刈り
7区	〃	〃（同上）深刈り

表2 秋の生育状況

試験区	秋芽の揃い	徒長枝の多少	葉の大きさ	生育の良否
1区	良	少	中	やや良
2区	やや良	やや多	中	良
3区	やや良	中	中	良
4区	やや不良	多	大	やや不良
5区	やや良	やや多	中	やや良
6区	良	やや少	やや大	中
7区	中	多	大	中

注) 平成7年10月2日、達観調査

表3 一番茶の生育状況

試験区	芽の伸び	芽の揃い	芽の数	総合評価
1区	やや不良	やや不良	やや多	中
2区	やや良	良	やや多	良
3区	やや良	良	やや多	良
4区	やや良	やや良	中	やや良
5区	やや不良	中	中	中
6区	良	中	やや多	やや良
7区	中	やや良	やや少	中

注) 平成8年5月8日、達観調査

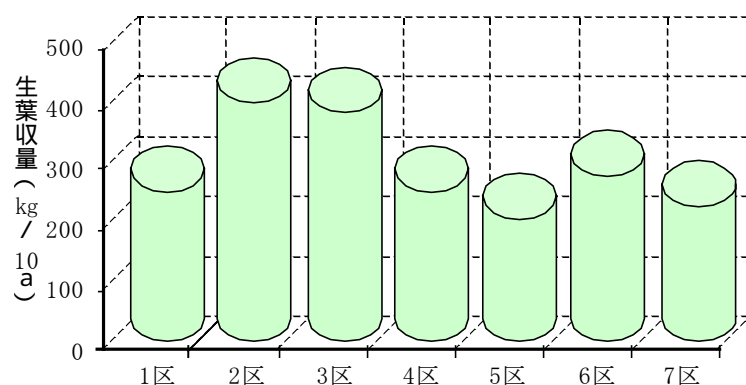


図1 生葉収量（H8、一番茶）